年頭所感

新年のご挨拶

大阪大学工業会会長　鈴　木　　胖

新年明けましておめでとうございます。旧年中は本会の活動に多大のご協力とご支援をいただき、まことに有難うございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。大阪大学工業会は昨年創立100周年を迎えました。年頭にあたり、まず当会のこれまでの歴史を概観し、ついで当会の活動の近況をご報告します。

大阪大学工学部のルーツである官立大阪工業学校は、1896年（明治29年）に大阪市北区玉江町（現北区中之島５丁目）に創立されました。1901年（明治34年）に大阪高等工業学校に昇格しました。1919年（大正８年）３月、学校の移転・新築及び創立25年周年事業を計画するにあたり、学校主導のもと卒業生大会が開催され、同窓会「大阪工業倶楽部」を設立することが決定されました。同年６月には会誌創刊号が発行され、翌年４月には第1回倶楽部総会が開催されました。1923年に学校は都島区綱島（現都島区東野田町４丁目）に移転し、校舎の新築とともに大阪工業倶楽部会館が竣工しました。1929年（昭和４年）には大学令により大阪工業大学に昇格しました。1933年には1931に創立された医学部と理学部からなる大阪帝国大学に編入され同工学部となりました。

第２次世界大戦（1940年～1945年、日本の参戦は1941年）の混乱を乗り越え、戦後初の大阪工業倶楽部総会は1947年５月に開催されました。1969年３月には倶楽部は創立50周年を迎え、同年末母校の工学部が吹田に移転しました。これを機に倶楽部も工学部キャンパスから少し離れた吹田市藤白台に工業会館を建設することになり、用地を取得し、４年後の1973年５月に会館が竣工しました。この間、会館の建設そして運営にあたり大阪府から倶楽部を公益社団法人化すべきであるとの要請を受け、定款等を整え名称変更を文部省に申請、1971年３月に「公益社団法人大阪大学工業会」として文部大臣の認可を受けました。

しかし、藤白台の会館は会員の多くからアクセスが良くないと評価され、10年後の1983年に会館建物を敷地も含めて売却し、大阪駅からドージマ地下街を通り歩いて行ける大阪市北区堂島２丁目の近鉄堂島ビルに会館を移転しました。この10年間は日本の高度経済成長期にあたり、藤白台の地価は12倍以上に上昇し、結果として工業会の資産は大きく膨らみました。1998年（平成10年）４月には大学院重点化により工学部が大阪大学大学院工学研究科に衣替えしました。４月発刊の工業会誌はちょうど500号で、これを契機に会誌名を「TECHNO　NET」と命名しました。2005年には、経費削減その他の理由から会館を閉鎖し、工業会事務局のみをその前年に新設された大阪大学中之島センターに移転しました。

2008年には我が国の法人改革の流れの中で「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」が制定され、当会は2011年の総会において公益社団法人から一般社団法人に移行することが決定されました。これを受けて定款（本会の目的や事業などを定める）の変更など所要の手続きを経て内閣府に申請を行い、2012年３月に内閣総理大臣から一般社団法人として認可する旨の許可が下り、４月に移行登記を行いました。

工学研究科・工学部の卒業生・在校生の人数は約４万人にのぼり、これを母体とする当会は大阪大学の部局等の同窓会の中でも最大の存在です。当会は定款に従い、公益継続事業と共益事業（同窓会活動）という二つの事業を実施しています。

公益継続事業としては、

⑴ 各種講演会の開催及び援助、数学講座の開催、工場や施設あるいは工事現場の見学、科学技術展示会、ホームページ（Techno Net Web）による情報の伝達・啓発活動等の事業。

⑵ 大学の海外交流活動の援助・支援、科学技術に関する調査・研究活動に対する援助・支援、大阪大学工業会賞の授与等の事業。これらの援助・支援、工業会賞の授与の対象は工業会の会員に限られます。

⑶ 研究・科学論文誌（会誌）「TECHNO　NET」の刊行（年４回；１、４、７、10月）。

⑷ 企業の協力を得て各種セミナーを開催し、会員・非会員を問わず学生のキャリア教育の推進。

共益事業としては同窓会活動、すなわち会員を対象とした総会（年１回）、理事会（原則年２回）、支部総会（年１回）、支部役員会（原則年２回）等の開催。

当会の上記の事業活動は卒業生、在校生、現役教員のうち会費を収めていただいている方すなわち会員により維持されています。会費は正会員6,000円/年、学生会員3,000円/年ですが、入会時に５万円を納入していただくと以降は年会費のいらない終身会員になることができます。当会としてはお得な終身会員制度を利用して、会員の皆様が生涯にわたり同窓会事業に積極的に参画・協力していただくことを切に希望しております。

当会の事業を活発化するには、大学との連携を一層緊密にし、大学の教育研究活動への工業会の支援を学生や教職員に身近に感じていただくことが基本的に重要であると考えています。2017年、工学研究科・工学部は大学本部の協力のもと、工学部地区にある従来の食堂中心の福利厚生会館の耐震改修工事を行い、隣接して６階建ての吹田福利交流研究棟（名称：センテラス）を新たに建設されました。当会はこの機会を捉え、総会の同意を得て、資産の一部をセンテラス建設のために寄付しました。そして大学当局の了承を得て３月に当会事務局を大阪市内から同棟内に移転いたしました。

センテラスは６階建て、延床面積約3,700㎡の規模で、１階は食堂の拡張部分、２階は生協キャンパスサポートセンター、３階は交流スペース・サロン、４～６階はオープンラボが設けられています。当会事務局は３階の交流スペース・サロンの一画（約48㎡）に置かれています。

当会は交流スペース・サロンにおいて、工学研究科・工学部、同窓生、企業の皆様のご協力を得て、在校生を対象として卒業生が活躍している企業の活動を個別に紹介するイブニングセミナー「企業と学生をつなぐ」、工学研究科・工学部の教職員、学生、同窓生の親睦・交流を深めるプレミアムフライデーなどの新しい事業を積極的に工学部・工学研究科と共催し展開しております。皆様も機会があれば、新しいセンテラスの交流スペース・サロンの催しに参加され、当会事務局にもぜひお立ち寄りください。

昨年11月30日（土）には千里阪急ホテルにおいて100周年記念シンポジュウム、その後記念パーティを開催いたしました。内容の詳細は本会のホームページ及び「TECHNO NET」４月号で報告いたします。

ご報告を兼ね、本会の活動への皆様の一層のご支援・ご協力をお願いし、新年のご挨拶とさせていただきます。

（電気　昭和33年卒　35年修士）

年頭所感

新春のご挨拶

大阪大学大学院
工学研究科長・工学部長　馬場口　登

令和２年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

大阪大学工業会の皆様には、平素より工学研究科・工学部の教育研究、人材育成に多大なるご支援ご理解を賜り心よりお礼申しあげます。

令和最初の年であった昨年は、いろいろなことがありました。譲位に伴う新天皇の即位、台風による大水害、ラグビーW杯での日本の活躍など。その中で、阪大工学研究科にとって大変喜ばしいニュースがありました。それは旭化成の吉野 彰博士が「リチウムイオン電池」の開発によりノーベル化学賞を受賞されたことです。メディアでは吉野博士の出身大学・出身学科、そして過去のノーベル賞学者の系譜にあることが喧伝されました。ところが、吉野博士が本工学研究科で博士（工学）を授与されたことは、残念ながら大きく報じられませんでした。平成17（2005）年３月に当時の電子工学専攻、吉野 勝美教授（現、名誉教授）が主査をされ、提出論文題目は「リチウムイオン二次電池と高出力型蓄電デバイスに関する研究」でした。私は、企業研究者に大阪大学が学位を授与したということに大きな意味があると感じます。これこそがまさに阪大工学部の伝統的強みである産学連携を体現しているのではないでしょうか。

吉野博士がリチウムイオン電池を開発されたのは、1980～90年代でした。当時、総合電機メーカーは、中央研究所や基礎研究所を有しており、企業研究者が活発な研究を行い、アカデミア研究者と両輪となって、日本の研究開発をけん引していました。私の専門分野は画像認識・処理ですが、国際会議でも多くの企業研究者が優秀な発表を行い、会議の運営にも中心的役割を果たしていました。失敗が付きまとう基礎研究であっても企業で続けていくことができた時代であったといえるでしょう。

翻って現在の状況はどうか。国際会議で発表する企業研究者はかなり減りました。一方、アカデミア研究者が息の長い基礎研究を安定して行えているかと言えば、それもノーかもしれません。３～５年の間に研究提案の申請・獲得・評価が繰り返される中で、息継ぎをするのも困難状況です。アカデミア研究者と企業研究者が何の障壁もなく共創してイノベーションを生み出しうる場を大学が主となって提供することを考えていかねばなりません。

さて、私は、昨年の８月から工学研究科長の職にありますが、その際に「工学部の色とブランディング」なる所信をしたためました。その一部を披露させて頂きます。大学のブランド力は、優秀な学生を日本全国、いや全世界から集めるために極めて重要です。このブランド力は、無形のもので、一歩一歩地道に努力し、業績を積み上げながら、徐々に造成されます。阪大の場合、数十キロ離れたところに、強烈なブランド力をもつ有力国立大学があります。ここの後を追っているようでは、阪大のブランド力は上がりません。ブランディングには、阪大工学研究科の色（カラー）を前面に打ち出す必要があります。

阪大工学研究科の色はなにか？月並みではありますが、「産学連携」「イノベーション」ではないでしょうか？元来、阪大工学部は、地元産業界の後援を得て、誕生したという経緯があります。造船や醗酵、冶金の学科が創設時にあったことは、地場産業と密接に結びついていたからに他なりません。一方、現在では、一流大学の証ともいえる指定国立大学に選出されていますが、そこでは「社会変革に貢献する世界屈指のイノベーティブな大学」を指針に挙げています。

本研究科は「産学連携」を旗色とし、新しい価値を創出する「イノベーション」の基礎を涵養するための教育研究を探索していくべきと考えています。本研究科を語る上で欠かせないものに、共同研究講座と協働研究所があります。前者は、本研究科が日本で最初に発案した組織で、企業とアカデミアの研究融合（Industry on Campus）という着想、考え方の先見性と卓越性は特筆すべきものです。共同研究講座と協働研究所の数は、他大学に比して圧倒的ですが、最初の共同研究講座設置から約15年経ち、次代の枠組を考える時期に来ています。今後、大学院に新設されるテクノアリーナをベースに新たな挑戦をしたいと思います。

令和２年４月から、再編された工学研究科が始動します。新研究科のご紹介は別の機会に譲りますが、令和の時代に工学部・工学研究科が大きく伸びることを夢見ています。本会会員の皆様からの一層のご支援ご鞭撻をお願いする次第です。

（通信　昭和54年卒）

2020年を迎えて

大阪支部長　太田紀一

新年明けましておめでとうございます。支部全員の皆様にはご清祥にて穏やかな新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。支部長をお引受けして４年目に入ります。支部全員の皆様の温かいご理解とご協力に感謝しております。

１．2020年度大阪支部役員

支部長　太田 紀一（造船Ｓ32）
副支部長　野田 耕市（建築Ｓ33）
副支部長　安江 貞夫（電気Ｓ34）
副支部長　菅　健一（醗酵Ｓ37）ビールの会担当
副支部長　吉田 敏臣（醗酵Ｓ38）
副支部長　本村 甚三郎（応化Ｓ38）三木会・ゴルフの会担当
副支部長　島田 壯八郎（土木Ｓ40）総務担当
副支部長　仲津 英治（機械Ｓ43）

２．大阪支部の行事

(1) 支部総会・懇親会
毎年春に開催。昨年は日本盛酒蔵通り煉瓦館で開催。

(2) 三木会
毎月第３木曜日の11：30－13：30に開催しています。場所は大阪曽根崎のお初天神北側の日本料理「八幸」

(3) ビールの会
毎年８月に開催。昨年はキリンビール西宮工場で開催。

(4) ゴルフの会
毎年春夏の２回開催。昨年は宝塚高原ゴルフで開催。

(5) 講演と見学会
毎年２回開催。
昨年は５月に（株）ＧＳユアサで「自動車の電動化と電池の動向」を勉強。
11月に航空保安大学校で「航空の教育」と「関空連絡橋の被害と復旧作業」を勉強。

3. 私太田のＯＫＣ

(1) 岡山支部
1957年に三井造船（株）玉野造船所に入社、以後1965年に千葉造船所に転勤する迄８年間、毎年岡山支部総会に出席して岡山県内の各社の諸先輩と交流しました。昨年６月に岡山支部総会に久し振りに出席して各企業の現役、ＯＢの人達と有意義な一刻を過しました。大阪支部とは異なり各企業の現役の人達が多く出席されているのがうらやましかった。

(2) 東京支部
1985年に東京本社に転勤、以後2004年に伊丹に戻る迄19年間東京支部にお世話になりました。
支部長は高坂憲三（造船Ｓ12）、竹内哲夫（精密Ｓ27）、榊原純哉（応化Ｓ20）、池田博昌（通信Ｓ34）と４人の人達でした。囲碁会は服部毅（応化Ｓ27）を中心に20名強のメンバーでした。
伊丹に戻った現在も二日会、囲碁会、旅行会には可能な限り出席参加しています。

（造船　昭和32年卒）

新年のご挨拶

東京支部長　池田博昌

新年明けましておめでとうございます。今年は元号が平成から令和に代わって初めての新年を迎えます。会員の皆様にはご清祥にて穏やかな新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。支部長をお引き受けして19年目に入ります。支部の運営に当たり、会員の皆様の温かいご理解・ご協力に感謝しております。

大阪大学工業会は昨年創立100周年を迎え、11月に盛大な記念式典が開かれ多数の方が参加されました。また東京支部は今年に創立100周年を迎えることになり、長い歴史のもと、ここまで発展してきたことは歴代役員のご努力の賜物と感謝しております。

昨年は、旭化成名誉フェローの吉野　彰氏がリチウム電池の実現に必須の技術を開発されたことが認められノーベル化学賞を受賞されたことは大きな栄誉であります。

８年前に発足した大阪銀杏技術士会（阪大技術士会）は、着実な進展をしており、会員数は増加しており、100名を超えるまでになりました。阪大卒業者の中で技術士の資格をお持ちの方、資格取得に関心を持ちの方は会員登録を頂くと幸甚です。皆様のご理解をお願いします。

ＯＫＣ東京支部の活動に関しましては、四大行事と称している「総会」「ビールの会」「秋の集い」「新年会」では最近は60名程度のご参加を頂いております。昨年の「ビールの会」では100歳を迎えられた醸造S18年卒の三宅正夫氏がお元気なお姿で参加頂き、人生100年時代を実感する場面がありました。また、月例の夕方の「二日会」（昨年11月には第700回を迎えました）、昼食会としての「二水会」はいずれも会員相互の懇親を深める会として着実に開催しており、毎月賑やかに話題が広がっております。二日会の日の午後に実施している「囲碁同好会」も毎月盛況です。「ゴルフ同好会」については春秋と開催してきており、昨年10月には第110回を迎えることが出来ました。参加者の若返りも進んでおります。さらに、経済学部・法学部ＯＢとの新年懇親ゴルフでは２年連続で優勝することが出来、喜んでおります。当支部からは17名が参加し、優勝者もでております。今年も１月初旬に予定しております。冬季には「スキー同好会」の活動も積極的に行われております。年末恒例となっている「大阪大学の集い」では工学部は他学部を凌ぐ多数の参加を頂いております。また、「カラオケ同好会」も好評です。「旅行同好会」では昨年は「長崎くんちと世界文化遺産を巡る旅」に10名が参加しました。

四大行事には多数の参加を期待して参加者の誘致に努力するなど、６名の副支部長の絶大なご協力により活性化に努力しております。本年も、支部活動のさらなる活性化に向けて引き続き取り組みますので、ご期待いただきたいと思います。東京支部の会員諸氏におかれましては、支部の各種催事に奮ってご参加いただきますよう、年頭にあたりお願い申し上げます。

（通信　昭和34年卒）